23-08_58- 発想中泉3P629.qxd 23.6.29 13:01　ページ 58

Lesson 206　発想する！授業

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

生涯学習施設における多世代交流の学びの場づくり

中泉 理奈

提案：地域資源を活かした、多世代交流事業を計画してみませんか。

令和5年2月、本誌のご縁で「ひとづくり・地域づくりフォーラムin山口」にて、実践紹介の機会をいただきました。私自身も、この学習会に参加し、社会教育行政職員や地域活動者の皆さまとの交流を通して、課題解決のヒントを得ることができました。また、山口県で一緒に登壇した、九州女子大学教授大島まな先生にお誘いいただき、5月「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第40回大会」に参加しました。他地域で活動するさまざまな立場の実践者と交流し、情報交換することで私自身の実践をふりかえることができ、新たな気づきや発見がありました。地域交流や多世代交流の学習効果を体感した一日となりました。

一方で、人や地域をつなぐ学習プログラムづくりや、多世代の交流を促す学習支援に悩みや課題を感じている方もいらっしゃったことが印象に残っています。

そこで、本稿では、学びで地域をつなぎ多世代交流を促す事業づくりについて、荒川区立生涯学習センターi（以下、センター）での実践を紹介し、多世代交流の事業づくりと学習支援について考えたいと思います。

1．施設の機能を活かした生涯学習センターの運営

センターは元小学校を活用した施設で、研修室や体育館、グラウンドなどの貸し出しを行っています。センターでは区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、学習意欲に応える機会を作るため、生涯学習に関する相談、情報収集、提供等を行い、生涯学習の推進を図ってきました。

令和4年度に策定した「生涯学習推進計画（第三次後期）」では、あらゆる区民が主体的に学習できる環境や、学びを通じて

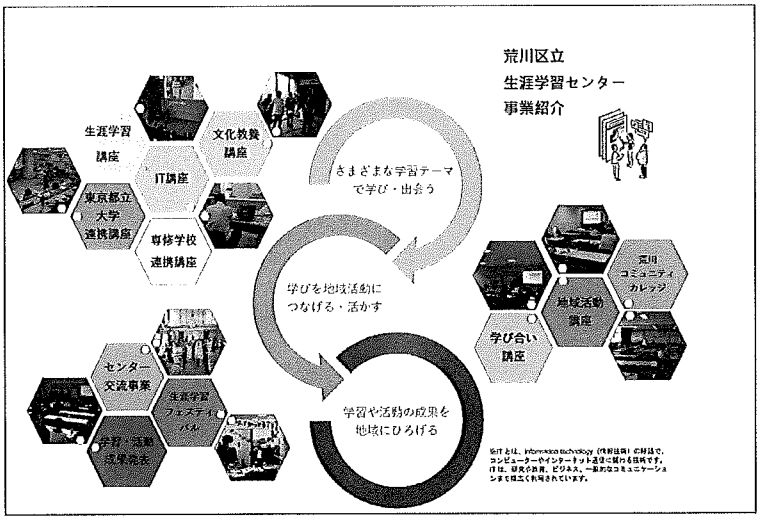

図1

仲間や地域社会と繋がり、それぞれの立場で自己実現を図れるような環境を整備、充実させることとしています。そのためには、「学ぶ」という視点だけではなく、「つなぐ」「活かす」「ひろげる」といった視点に立ち、区内全域を地域活動の対象に、施設内にとどまらない様々な学習や活動を推進していく必要があります。生涯学習施設が持つ機能をさらに活かし、講座や地域交流イベント、生涯学習相談事業等を通して人や地域をつなぎ、地域での生涯学習をさらに広げていくため、センター主催事業を実施しています。（図1・2参照）

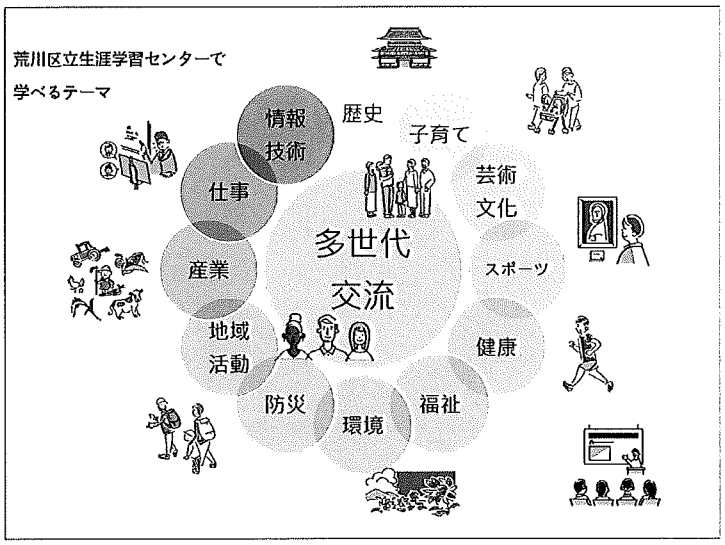

図2

2. 人や地域をつなぐ多世代交流の事業づくりと学習支援

今年度、「生涯学習センター交流事業」では、壁画アートを描く事業を行っています。本事業では、施設を活用した学習や活動体験を行い、センターを拠点に、区民同士の交流を促進することを目的としています。

壁画アートを区民と一緒に作成するため、作業の一部を公募型の講座として計画し、区立小学校等の壁画作成を担ったことがある、地域活動団体「環境美画」に講師や壁画アート制作ボランティアをお願いしました。初回は、講座と下絵作成、2回目以降は、壁画アートを描く全5日程のプログラムにしました。

7歳から大人まで、26名の申

写真1　グループで下絵を張り合わせ準備をしている様子

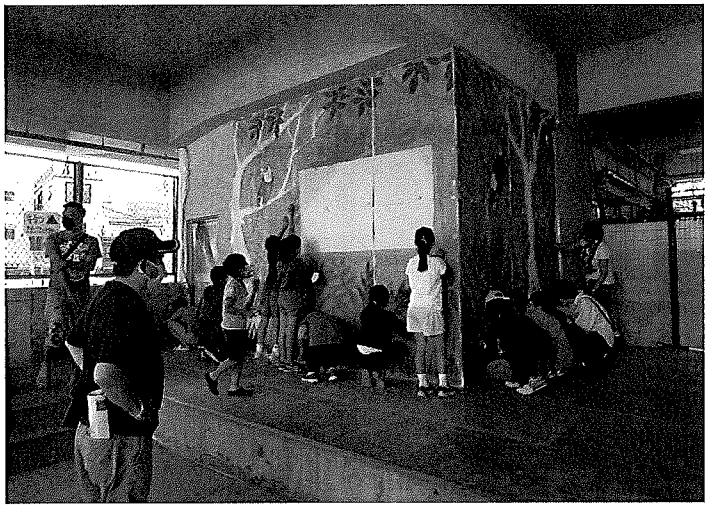

写真2　下絵を壁に貼り、下書き（転写）をしている様子

23-08_58- 発想中泉3P629.qxd 23.6.29 13:01　ページ 60

し込みがあり、5月24日の初回講座では、「環境美画」代表で、「荒川コミュニティカレッジii」修了生の多田浩二さんから壁画制作に参加したきっかけやまちづくり活動への想いなどを伺ったあと、作成の手順や留意点を学びました。

講義の後、4つのグループに分かれて壁画の下書きに向け準備作業を楽しみました。壁に下絵を描きはじめたころには、心地よいコミュニケーションが生まれていました。（**写真1・2参照：前頁**）

数日後、親子で参加した方（保護者）が、小学2年生のお子さんが壁画アート体験について書いた日記を見せてくれました。そこには、他の人と一緒に活動して楽しかったことや次の壁画アート活動がとても楽しみだということが書かれていました。

事業を企画した私たち職員もとてもうれしい気持ちになり、保護者に許可を得て、講師の多田さんにその日記を共有しました。

参加者が壁を塗る作業日は、ひとり1、2回でしたが、お子さんが書いた日記を読んだ多田さんから、「こんなに楽しみにしてくれるのならば、環境美画が活動をする日に子どもたちが参加できるように考えよう」と提案がありました。一通の手紙から新たな活動の展開になりました。

このことから、学びを通した多世代交流が、新たな地域コミュニティにつながることを実感しています。また、学びを活動につなげるためには、学習支援者が人や地域をつなぐ視点を持ち、参加者への個別丁寧な学習支援が必要だと改めて感じました。今回の経験を活かし、今後も学びの場が持つつなぐ力を十分に発揮できるような事業づくりと学習支援をすすめていきたいです。

3　気づきと今後に向けて

この事業を通して、私はセンターが場の機能を活かし、さらに生涯学習の拠点となるため次の視点が大切だと改めて気がつきました。

① さまざまな世代の学習機会を充実させるとともに、学習を通して多世代がつながる学習機会を提供する。

② 地域の魅力や課題を地域資源と捉え、人と地域をつなぐ事業づくりや学習支援を行う。

③ 区内全域を生涯学習の場と捉え、生涯学習・地域活動の情報発信基地を目指す。

この3つの視点を意識した事業づくりに加えて、センターで実施する事業だけでなく、区で実施する社会教育・生涯学習事業等の参加者が継続的に学習し、活動につながる仕組みづくりを行っていきたいと考えます。また、センター利用者や各事業の参加者、地域活動団体の生涯学習や地域活動に関する個別の相談に対応し、学習事業や地域の活動につなげていきたいです。

事業づくりや相談に対応するために、私たち学習支援者が、関係各所と情報共有・連携を図り、区内外の学習活動の情報収集や情報交換が欠かせないと思います。併せて、事業や仕組みづくりを行う時に、各地の具体的な実践事例を知って、実践者から学び、視点を変えて企画・計画したものを再検討してみることも必要だと感じています。私は、学びの仕掛け人となる学習支援者がゆるやかにつながり合って、多世代でともに学び、情報交換を行い、知る喜び、つながる喜びを体感することが大切だと考えます。今後も本誌を通じて他地域の実践者とつながり、情報交換をして、実践に活かしていきたいです。

（註）

i 平成18年度から指定管理者が運営し、令和5年度から区が運営。

ii 地域の担い手育成を目的とし、平成22年開校した区直営の地域大学。

中泉　理奈（なかいずみ・りな）
荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課社会教育主事